

事例24

< 事例概要 >

迷入

① 40 歳代、腎前性腎不全、慢性閉塞性肺疾患、右上肺野に巨大ブラ有、アルコール依存症、慢性膵炎の患者。

② 高度脱水治療のため、中心静脈カテーテルを留置予定。

③ BMI 10.8 kg/m²。脱水あり。抗血栓薬の使用は無。

④ 左内頸静脈より透視とリアルタイム超音波ガイド下で長針を使用して穿刺。1 回目でガイドワイヤーの先端が変形。2 回目はガイドワイヤーの反対側の硬い方を挿入、上大静脈方向に進めカテーテルを挿入し、透視で先端位置を確認。逆血はないが、輸液は可能。X線でカテーテル先端位置が深いと判断、数c m引き抜き固定、位置確認はしなかった。前胸部痛があり、カテーテルから鎮痛剤投与始。20分後、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）70%台へ低下。CT でカテーテルの縦隔内迷入が判明し輸液中止。輸液開始約2 時間半後、心肺停止。心臓超音波検査で心嚢内に液体貯留を認め、輸液開始から約4 時間後に死亡。

⑤ 死因は、中心静脈カテーテルの心嚢内迷入と、輸液の心嚢内貯留による心タンポナーデ。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。